

平成 31 年第 1 回那覇港管理組合議会（2 月定例会）

平成 3 1 年度 施政方針

平成 3 1 年 2 月 5 日

那覇港管理組合

平成31年度 施政方針

ハイサイ、グスーヨー チューウガナビラ。

平成31年第1回定例会の開会にあたり、各議案の御審議に先立ちまして、那覇港運営にあたっての施政方針について申し述べ、議員各位、県民・市民の皆様のご理解・ご協力を賜りたいと存じます。

(1. 運営の基本姿勢)

まず、第1に「運営の基本姿勢」について申し上げます。

現在、那覇港管理組合の最大の事業であります那覇港総合物流センターにつきましては、昨年12月に本体工事が完成し、現在、テナントの設備工事等が行われているところであり、本年5月1日の開業に向けて準備が進んでおります。

那覇港の取扱貨物量につきましては、内貿貨物の順調な増加により、平成29年は過去最高の1,216万トンを記録しております。

また、平成29年の外貿コンテナ貨物は、約8万

1千^{ティ-イ-ユ-}TEUで、平成28年から約4%増となっております。

輸出貨物量の増加に向けては、那覇国際コンテナターミナル株式会社^{ニクティ}NICTIと連携し、新規航路誘致等、積極的な取り組みを行っているところであります。

今後も、取扱貨物量の増加に対応した港湾施設の整備とあわせ、新規航路誘致・輸出貨物増大などの取り組みを着実に実施し、港湾機能の強化を図ってまいります。

那覇港へのクルーズ船の寄港数につきましては、昨年は過去最高の243回の寄港がありました。

今年は1月15日時点で、昨年をさらに上回る304回の寄港予約が入っており、今後もさらなる寄港の増加が見込まれます。

このような需要への対応、増加する大型クルーズ船の安定的な寄港、クルーズ船客^{せんきやく}の満足度の向上を図るため、また、沖縄県が掲げる「東洋のカリブ構想」の実現に向けたクルーズ船の拠点港化、母港化に対応した受入施設の整備を推進するため、

第2クルーズバースの整備に取り組んでまいります。

一方、大規模災害への対応や一部老朽化した港湾施設の改修についても十分な対策を行い、安全でかつ利用者の信頼に応えられる港づくりを進めてまいります。

また、浦添ふ頭計画につきましては、沖縄県全体の将来を見据え、懸案事項の早期解決を図り、港湾計画改訂に向け取り組んでまいります。

(2. 平成31年度予算編成)

第2に、「平成31年度予算編成」について申し上げます。

平成31年度の予算編成にあたっては、ただいま申し述べました基本姿勢に基づき、限られた財源を重要な施策に効果的に配分することを基本としております。

その結果、平成31年度予算案は、

一般会計において 33億6,034万8千円

特別会計において 18億9,785万8千円の規模となっております。

(主要施策の説明)

次に、平成31年度の主要施策の概要について、ご説明申し上げます。

(1 流通港湾としての機能強化)

1つ目に、「流通港湾としての機能強化」について申し上げます。

第2期、第3期の総合物流センター整備につきましては、第1期の物流センターの運営状況等を踏まえ、事業化の可能性等について検討します。

また、海上物流コストの低減に資する片荷輸送の解消、貨物量増大に向け、引き続き、荷主及び船社を対象とした実証実験を行います。

さらに、国際コンテナターミナル等における物流システムの高度化に向け、那覇港での実施の可能性についての検討調査を行います。

（２ 国際観光・リゾート産業の振興）

２つ目に、「国際観光・リゾート産業の振興」について申し上げます。

第２クルーズバースの整備につきましては、官民連携による国際クルーズ拠点の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。

また、新港 9 号・10 号岸壁におけるクルーズ船の受け入れにつきましては、税関手続きを船外で行うための仮施設を設置し、クルーズ船客^{せんきやく}の受入環境の改善を図ります。

クルーズ船客に対する歓迎セレモニー等も引き続き実施してまいります。

ポートセールスでは、クルーズ専用の泊^{とまり} 8 号岸壁での寄港曜日の平準化に努めるとともに、沖縄県等とも連携して欧米・オセアニア系クルーズ船の寄港増を目指してまいります。

また、離島振興に資する取り組みも重要であり、離島航路の拠点である泊^{とまり} ふ頭地区において、離島住民や観光客の快適性・利便性の向上を図り、離島航路を支える取組を進めてまいります。

(3 安らげる空間づくり)

3つ目に、「安らげる空間づくり」について申し上げます。

臨^{りんこう}港道路浦添線の^{かんしょうしゅうけい}緩衝修景緑地として、浦添ふ頭地区において^{ひがしがわ}東側緑地の整備を進めてまいります。

また、那覇港のウォーターフロント地区において、那覇クルーズターミナルを活用したイベントの開催等により賑わいを創出するなど、那覇港の魅力を発信してまいります。

(4 港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化)

4つ目に、「港湾施設の安全性の向上・災害対応力の強化」について申し上げます。

大規模地震発生時に円滑な救命活動や物資輸送を確保するため、沖縄県の緊急輸送道路に指定されている臨^{りんこう}港道路 港湾2号線における液状化対策を進めてまいります。

また、老朽化が進む港湾施設の安全性を確保するとともに、予防的な保全により既存施設の延命化を

図るため、護岸の改修、設備の更新、上屋の改修等、港湾施設の計画的な維持管理に取り組んでまいります。

これらの施策を進めるため、平成 31 年度予算に所要額を計上しております。

以上、平成 31 年度的那覇港の運営にあたり、私の所信および主要な施策について述べてまいりました。

成長著しいアジアのダイナミズムを取り込み、沖縄県の経済発展と県民生活の向上を図るためには、那覇港の発展は必要不可欠であります。

そのため、今後とも那覇港の効率的かつ適正な管理運営と港湾施設の整備に全力を尽くす決意でございます。

議員各位及び県民、市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願い申し上げまして、私の施政方針といたします。

イッペー、ニフェーデービル。